大府かわら版

議員減らせば「身を切る改革」？

切られるのは市民の声＝民意です

9月定例議会

「定数削減」案 多数で否決

市民クラブがまた提案

日本共産党・久永市議も削減反対の質疑・討論

開会中の大府市議会9月定例会。17日の本会議に市民クラブ（4人）が、2022年に続いてまたも「市議の定数を現行19から18に減らす」条例改正案を出してきましたが、反対多数で否決されました。日本共産党・久永かずえ議員も質疑・討論に立ち、民主主義の後退を招くなど問題点を指摘。定数削減に反対しました。質疑・討論の概要を報告します。

① 議員は要らない？

“声なき声”に寄り添う役目を否定する

「行財政改革で…市民の負担軽減と福祉の更なる向上を目指し」て市議を減らす――これが市民クラブの提案理由です。

でも4年ごとの市議選挙では、福祉や暮らしなど市民のために働きますと議員活動の必要性を語り、だから自分を議会へと訴えてきたのではないのか。市民の中に「議員を減らせ」などの声があるなら、市民の命と生活を守るための議員は必要と真摯に説明するのが議員の立場。なのに自分から「議員は減らしてよい」と提案するのは、市民のためにある議員という存在を自分で否定し、自分で自分を「不要」と認めることになる――。久永市議は削減提案の問題点を述べ、地域住民の〝声なき声〟に寄り添う議員を削減することは「負担軽減、福祉向上」にはつながらないと指摘しました。

これに対し市民クラブ側は、18名に減らしても「それなりに議員活動を頑張るので存在否定はしていない」などと述べるだけでした。

② 財源等の有効活用？

議員報酬引き上げには賛成する矛盾

議員削減によって「行財政改革、限られた財源や人材を有効活用」すると市民クラブ。議員1人を減らせば「年に1千万円の報酬分を市民サービスに充てられる」と言います。ならば、と久永市議は以下の問題を指摘しました。

●**久永**市議…「限られた財源」から支出される議員の報酬（給与）や期末手当は、この間も引き上げられている（**※注**）。市民サービスを理由に議員を減らし「財源の有効活用」と言うなら、同じ「限られた財源」による自分の給与アップに賛成するのは矛盾では。反対すべきだったのではないか――。

指摘に対する答弁で市民クラブ側は「矛盾しているとは思わない」「議員報酬は特別職報酬等審議会で議論し評価され、自分たちで決められない」と言い訳。「議員定数を減らしたい」と一貫性の無い態度に収支しました。

※注…この間の議員報酬アップ
（報酬・期末手当の総額）
2023年度 144736589円から
2025年度 152957808円へ
822万円増、議員1人約**43万円増**

③ 議員自らに痛み？

実は市民が痛みを押し付けられることに

行財政改革のため「議員自らが痛みを伴う改革実行の姿勢を示す」――市民クラブの言い分ですが、では「議員自らの痛み」とは何なのか。

久永市議は、前回・2023年の市議選結果に言及。定数19のもとで最下位・19位当選者の得票は927票、18位当選者の得票は1063票だったが、この結果に照らせば、議員1人削減で1千人前後の市民の意思が議席に届かず切り捨てられることになる。それは「議員の痛み」ではなく市民自身がこうむる痛みだ、と指摘しました。

市民が自身の代表を議員に選び、その議員が市政をチェックするという議会制民主主義に対して、議員を削減し多様な民意を切り捨てるのは逆行になる――こう述べて議員定数削減提案への反対を表明した久永市議。市民クラブ側は「議員一人ひとりが役割を持って活動できれば市民の不利にならない」などと答えました。



相談はお気軽に声かけください



生活相談　日常生活の困りごとについてご相談ください。

予約制で弁護士が対応　**法律相談**

10月21日㈬午後6時～　無料

お急ぎの方も、まずは久永議員へ
久永かずえ 携帯電話 **090-1758-3521**